

国際関係学部国際言語文化学科 3年

フランス リール政治学院 Sciences Po Lille

留学報告書

2019-2020



最終留学報告書

国際関係学部 国際関係学科 3年

私は2019年9月から2020年4月まで約7か月間フランス、リールにあるリール政治学院に留学していました。住居は学生寮で1人部屋に住んでいました。フランスでの生活は日本での生活とは全く違い、楽しいこともあれば困難な時も多々ありましたが、常に刺激を受けて生活していました。このレポートを通して、フランスで学んだことや経験したことを振り返りたいと思います。

はじめに、学校生活について。私はCEP(Certificat d'Etudes Politiques)というコースを選択していました。このコースでは、英語の授業とフランス語の授業をほぼ同等の量を受けることとなります。正直に言うと、フランス語の授業はあまりにレベルが高く、とても辛かったです。クラスメートの留学生は言語スキルも豊富で、同じ授業を受けるのは大変でしたが、皆の意識がとても高い為、常に刺激ややりがいを感じていました。レポートやテストも準備がとても大変でした。政治や経済に関する知識がほとんど無かった為、言語の壁は勿論ですが、テストのときは一から経済を勉強し直さなければいけませんでした。最初はあまりにハードな授業に弱音を吐いてばかりいましたが、テスト期間は必死にレポートとテスト勉強に時間を費やし、なんとか全ての教科の単位をとることができました。しかし、最終的に後期はCEPのフランス語の授業を途中でやめてしまった為、CEPのコースを完全にやりきることはできませんでした。(辛かったから辞めたのではなく、授業内容に満足できなかった為辞めることになりました。) 当時は必死でやっていた為つらいとしか思えませんでした。今考えると、人生で最もハードなタスクだったと思います。フランス語もそれほどできなかったのも、とにかく根性で何とかやり切りました。その中で支えだったのが日本人の友だちの存在でした。普通、留學生活では同じ国籍の子たちとはあまり話さないほうが良いのかもしれませんが、CEPのコースでは日本人同士の協力が本当に大切でした。また、辛かったことばかりを書いてしまいましたが、リール政治学院での学生生活は、普通に日本で勉強していたら絶対に経験できない刺激的なものだったと思います。普段では学べない政治や経済のこと、フランス語の専門用語、様々な国の政治事情など、自分の知識がますます増えた実感があります。

次に、フランスでの生活について。私が留学に行った期間は、波乱ばかりでした。第一に、無期限デモです。フランスでは頻繁にデモやストライキが起きますが、この時期は特に盛んで、しかもかなり長期のデモがフランス各地で発生しました。デモやストは私の生活にも影響を及ぼしました。交通機関が止まってしまうフランス国内の旅行に行けない、学院の前での生徒たちのストライキによって学校が閉鎖してしまうなど…。クリスマスの時期に行ったパリでは、メトロやバスが運休で、パリの中をひたすら徒歩で観光しなければなりません。

んでした。しかし、日本では滅多に起こらないこのような現象を見て、日本もフランスから学ぶべきものがあると思いました。国を変えたいのならば国民がその声を政府に届けなければ、国を困らせなければ国は変えられない、というフランス人の強い意志を感じました。政治に関して消極的な日本と、政治に関してアグレッシブなフランスにかなり違いを感じました。また、波乱の二つ目がコロナウイルスの流行です。結局私たちはこれを原因に留学を中止せざるを得なくなっていました。フランスにもっと長く居たい気持ちは山々でしたが、一日に何百人も亡くなっていく恐ろしさ、医療機関への信頼度の低さ、国境封鎖による移動の制限、それに伴う日本へ帰ることができなくなるかもしれないという不安、そしてアジア人差別がとてつもなく酷くなったことなど、多くの理由により、もうフランスに居ることは不可能だ、と思いました。日本に帰る直前は皆あまりの不安や閉塞感に、ひたすら泣くことしかできませんでした。今でも、帰国前に誰にも笑顔で別れを告げられなかったことが心残りです。しかし、このような経験はもう今期以降の留学ではできなかったかもしれない、と思うと、より一層自分はレアな経験をしたな、こんなにつらいことを経験すればもうなんでも乗り越えられるな、という気持ちにもなります。

最後に、ネガティブな文になってしまったので、楽しかったことを振り返ります。私がフランスに行って一番良かったなと感じた瞬間は、日本ではあまり触れ合うことのない、戦争の歴史に触れあうことが出来たことです。私はユダヤ史を主に勉強していますが、日本ではまだまだポピュラーな分野ではないかと思います。しかし、フランスをはじめとする欧州諸国では、いたるところに軍事博物館や収容所があります。私はポーランド、ベルギー、ラトビア、イギリスなどの軍事博物館でホロコーストについての展示を見ましたが、どれも日本では知ることのできなかつたことだと感じています。そして同時に、日本でももっとこういうことを知る機会があればいいのにと感じました。政治学院での授業は正直歴史などは全く無かつたため、自分の勉強したい分野の授業を受けられないことにもどかしさを感じていましたが、こうした旅行の中での経験にはとても満足しています。

フランスに留学してよかったと思う点は、とにかく日本とは全く違うということです。国民性や政治、環境などすべてにおいて自分の固定観念を打ち壊されるような感覚でした。私は留学を通して広い価値観やパースペクティブを得ることがこの留学の目的だったので、結果フランスに行って良かったと感じています。そしてこの留学で学んだことを日本の生活で生かして、さらに学びを得たいと思っています。以上が留学報告書です。